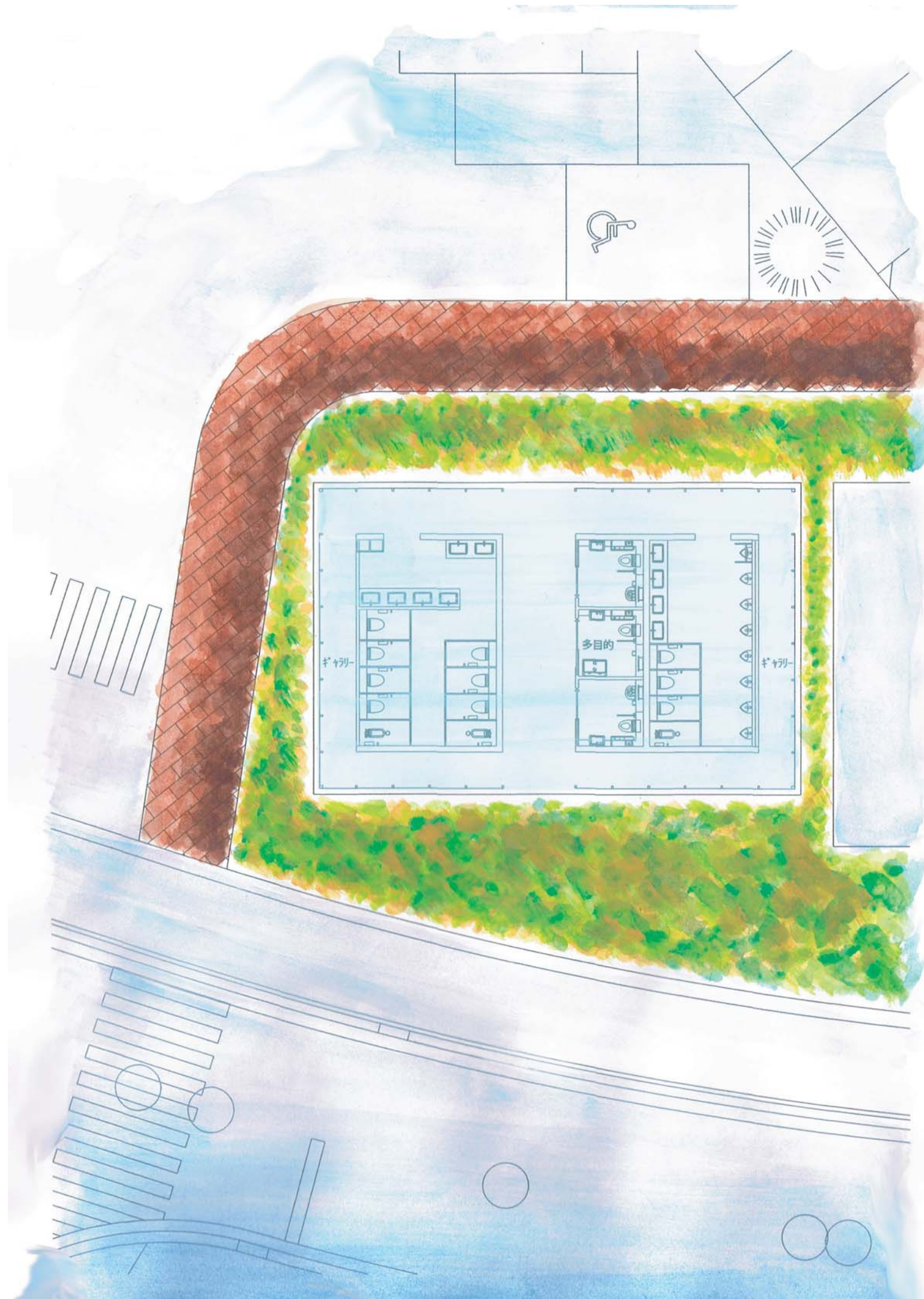


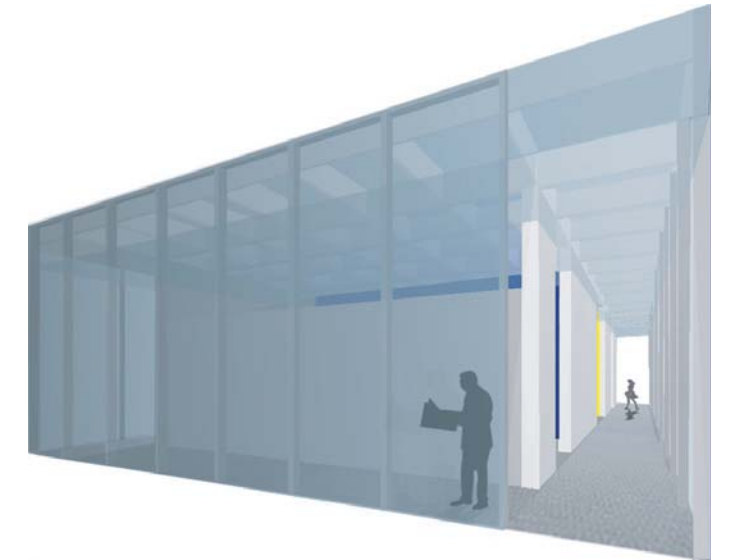
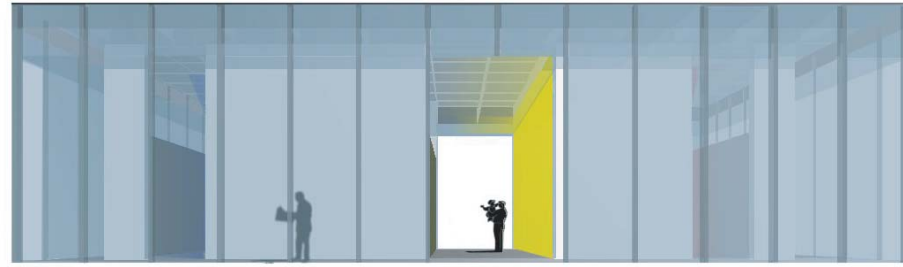
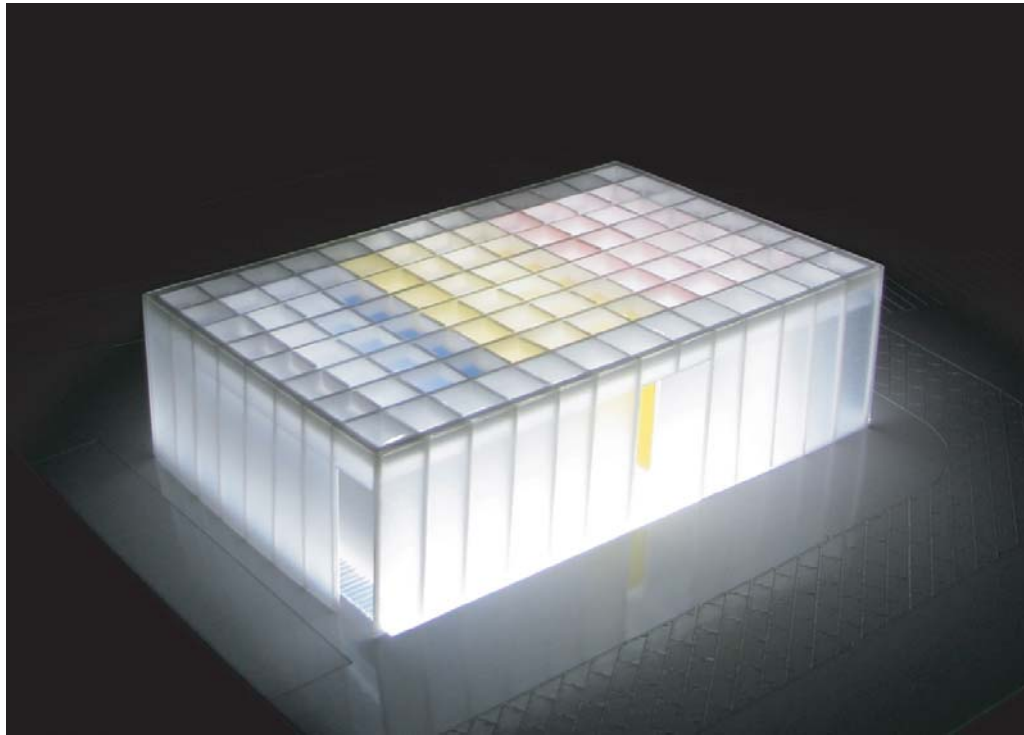
LandMark Glass Box

-ランドマークとしてのトイレ-

八幡浜市の新しい街づくりのシンボルのひとつとなるような、ガラスのトイレ棟を提案します。

大小様々な施設が開放感のある調和のとれた一体的な町のシンボルであれば、このトイレ棟はランドマークとして機能すべきと考えました。ランドマークは、土地に不案内な人が迷わない目印としての役割です。24時間美しく機能する幻想的な空間となります。





ランドマークとしてのトイレ

ここでのトイレにおける役割は、施設全体の整合性を図りながらも自らも働きかけることができるよう求められています。整合性とは開放感を意味し、

明るさ、外部との繋がりで、また閉じた箱（トイレ）にならないように周囲に白い壁を配置し通路部分を使った作品展示や掲示、告知が行えるように開いた箱とすることで市民を繋げます。ガラスのファサードは交流施設とトイレといった二つの世界のバッファーと位置づけています。屋根、天井にもガラスを用いて、昼間の自然光を十二分に採り入れ明るく清潔感を創出します。夜間には内部の照明と原色の壁の反射によって視覚的に発信することで、ランドマークとして人々に働きかけます。

形・素材について

ここではトイレを完全なオブジェとして扱うのではなく施設としての秩序を持たせながらも二重の箱型にすることで自律した世界を想起させます。

ガラスは古代よりつくられ様々な装飾・象徴として扱われてきたことが歴史あるこの町のランドマークとしての機能的に働きかけることができます。

色について

現地を見て鮮やかな彩りが欲しいと思いました。賑わいを演出させるような動きのある色。

それぞれの色がガラスを通して日中は室内に移ろいをもたらし自然を感じさせる。夜には幻想的な光を放しながらセキュリティにも役立ちます。またユニバーサルデザインを考えたときに赤、青、黄がすぐに思い浮かびます。

ライフサイクルコストについて

きわめて安定したシンボリックな平面計画とし免震性など機能美を追求します。

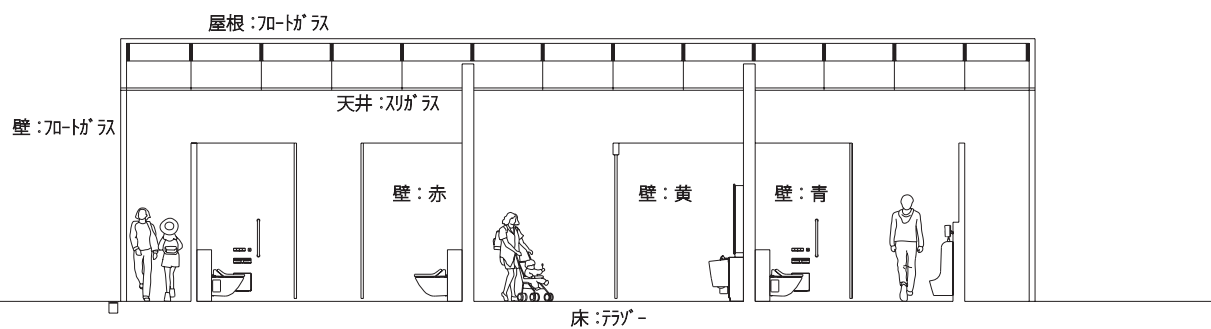
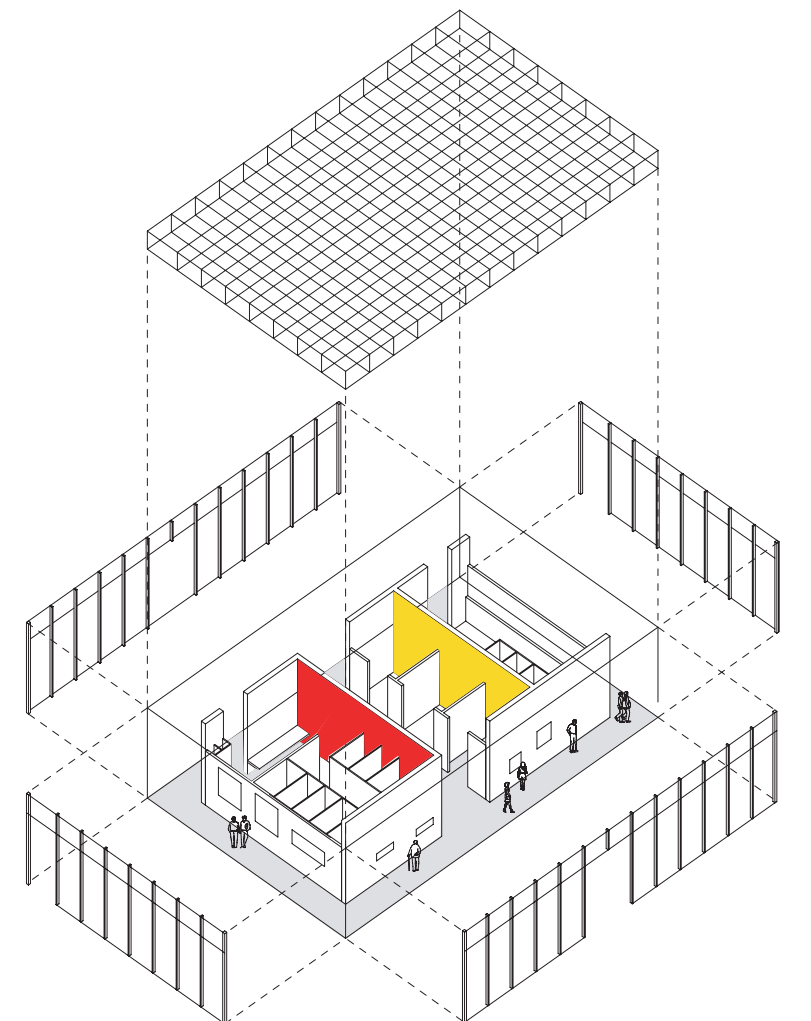
天井・壁・設備には清潔に保ちやすく、補修・交換など改修のしやすいものを厳選し余分なものを減らし長寿命化を目指します。床については、安全で耐久性のあるものとします。ガラスとすることで昼間の照度を確保し、夜はむやみに明るくする必要がありません。

建築概要

構造：鉄骨＋鉄筋コンクリート造

規模：154.44 m² 平屋建て

用途：公衆トイレ一部ギャラリー



断面図

